

2022年度第1回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会

書面開催結果

2022年10月

町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会

(1) 実施期間

2022年9月14日(水)から2022年9月28日(水)

(2) 議題

- ① 「町田市いきいき長寿プラン21-23」における2021年度の介護保険事業の総事業費等について
- ② 「町田市いきいき長寿プラン21-23」の2021年度進捗状況評価について
- ③ 「町田市いきいき長寿プラン24-26」の策定に向けた各種調査の実施について

(3) 出席者

委員 ※敬称略	長田(久)、今井、西口、五十子、長崎、長田(哲)、原口、西嶋、齋藤、老沼、叶内、中村、小澤、長谷川、佐々木、松山 -16名
事務局	岡林部長、田野倉課長、武藤課長、江成課長、青木課長、黒澤課長、菊地原課長、古川課長、大島係長、犬塚係長、岡係長、佐藤(里)係長、佐藤(順)係長、近藤係長、皆川係長、氏家係長、西山係長、小山、島田、田中、星野、井上 -22名

(4) 表決状況

承認	否認
15名	0名

※審議会会長は賛否同数の場合のみ表決を行うため数に含まれていません。

(5) 委員から寄せられたご意見の件数・内訳

議題番号	主な意見内容	件数
①	介護給付について	1
	予防給付について	2
	その他	1
②	地域ネットワークの充実について	2
	在宅医療・介護連携について	2
	高齢者の権利擁護について	2
	介護人材の確保・育成・定着について	2
	介護サービスの効率的な提供と質の向上について	3
③	調査の実施方法について	2
	調査の設問内容について	3
全般	その他	1
	合計件数	21

ご意見の概要とそれに対する市の考え方は、次ページ以降をご覧ください。なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は項目ごとに整理し、要約して掲載しています。

ご意見の概要及び市の考え方

【議題 1】 介護給付について

No.	意見概要	市の考え方
1	【資料 1・P 1】 介護保険の要支援・要介護での未利用者に対する対応策は考えているか。	要支援・要介護認定を受けた方には、スムーズにサービスの利用開始ができるよう、認定結果通知と併せて「介護保険のしおり」や、サービスの利用方法をご案内したお便りを送付しています。今後も、要介護認定をお持ちの方が必要とするサービスを受けられるよう、情報周知に努めてまいります。

【議題 1】 予防給付について

No.	意見概要	市の考え方
2	【資料 1・P 1】 要支援の予防プランの作成について、受託してくれる居宅介護事業所が少なくプラン作成ができない状況と聞いている。行政として把握しているか。また、今後の対応策はあるか。	ご質問の状況については、市も把握しております。対応策については、高齢者支援センターと市で共に検討していく予定となっております。
3	【資料 1・P 2】 介護予防サービスの予防給付費で、高齢者の健康促進（本来の介護予防）のための費用について項目は、どこに含まれているか。含まれているとすれば、今後要介護高齢者にならないため（費用抑制）にも重点的な予算をつけるべきと考えます。	高齢者の健康促進としては、要支援認定を受けた方と事業対象者の方向けの介護予防・生活支援サービス事業、元気高齢者向けの一般介護予防事業があり、いずれも、資料 1 のうち、「2 総事業費 C 地域支援事業費（1）介護予防・日常生活支援総合事業」に含まれます。この中には、自立支援・重度化防止に向けた取組の推進も含まれますので、引き続き重点的に取り組んでまいります。

【議題 1】 その他

No.	意見概要	市の考え方
4	【資料 1・P 1】 町田市の総人口が増加しているが、どこの地区が増えており、どの年代が増えているのか。また、町田 4 地区でサービス事業所が適正に配置されているか。	総人口の増加における大きな特徴としては、多摩境駅周辺地域である、小山ヶ丘及び小山町への現役世代の流入が挙げられます。詳細につきましては別添追加資料 1 をご覧ください。 施設整備にあたっては、4 エリアの各サービスの整備状況等を踏まえて、進めてきました。引き続き、各サービスが適正に配置されるよう、整備を進めてまいります。

【議題2】 地域ネットワークの充実について

No.	意見概要	市の考え方
5	<p>【資料2・P5】<高齢者支援センターと関係機関との連携強化></p> <p>8050問題は当事者が助けを求めて表に出てこないが、「心中」など、深刻な出来事が生じやすい問題だと思います。ケアマネジャーや民生委員のように、出かけて支援につなげる形態の充実が求められると思います。</p>	<p>いわゆる8050問題など複数分野にまたがる複雑化・複合化した課題を抱えている人の中には、支援を必要としながらも声をあげられない人や自らが抱える問題を認識していない人もおられます。そのような方を必要な支援につなげることができるよう、地域福祉コーディネーターの導入について検討を行っております。地域福祉コーディネーターは、相談を待つだけでなく、各種会議等に参加するなど、支援関係者との連携を通じて地域の状況等にかかる情報を幅広く収集し、支援が必要な潜在的な相談者を見つけ、本人と継続的な関わりを持つことで、適切な支援機関につなげる役割を担います。</p>
6	<p>【資料2・P5】<高齢者支援センターと関係機関との連携強化></p> <p>課題及び今後の方向性というところで、包括的な相談支援体制の具体的な運用ルールと表記されているが、重層的支援体制整備事業の中の地域福祉コーディネーターの導入等、この課題にも関係があると思われるので、今後特にコーディネーターの設置予定等の数値を入れると「連携」への取り組みがクローズアップされるのではないかと思う。</p>	<p>地域福祉コーディネーターの導入を含めた包括的な相談支援体制の構築については、「町田市いきいき長寿プラン21-23」の上位計画である「町田市地域ホッとプラン」において取組みを掲げています。</p> <p>「町田市いきいき長寿プラン21-23」におきましては、引き続き上位計画との連携・整合を図りながら計画を推進してまいります。</p>

【議題 2】 在宅医療・介護連携について

No.	意見概要	市の考え方
7	<p>【資料 2・P 5】 <地域ケア会議による課題解決機能の強化></p> <p>在宅医療・介護連携に関する地域ケア会議において、医療側が支援を受けたという実感は全くない。医療との連携は強化どころかされていないと感じており、何を評価し、◎の進捗評価なのか詳細な説明をしてほしい。</p>	<p>この取組は地域ケア会議の課題解決能力向上を目的として実施しているため、地域ケア推進会議の参加者アンケートで「地域課題の解決に向けて効果的な話し合いができた」と回答した方の割合を指標としています。今回の進捗評価については、目標値の75%に対して89%と、110%以上の実績であったため、◎としました。在宅医療・介護連携に関する地域ケア会議の実施にあたっては、課題解決に向けて効果的な内容となるよう、介護職・医療職双方の視点を踏まえた企画・運営に努めてまいります。</p>
	<p>【資料 2・P 12】 <「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」の推進></p> <p>町プロに関して、進捗評価が○であるが、◎でも△でもない理由を説明してほしい。</p>	<p>本項目は町プロが行っている取組みのうち、「多職種連携研修会開催回数」を評価指標としています。目標値は2回となっており、2021度は2回の開催実績があったため、概ね計画通り進捗していると判断し、○の評価としました。</p>

【議題 2】 高齢者の権利擁護について

No.	意見概要	市の考え方
9	<p>【資料 2・P 13】 <成年後見制度の利用支援></p> <p>市民後見人が今後見込まれる利用者数から考えると極めて少ないと思われる。</p> <p>市が行っている報酬支援の支援対象層を広げるとともに、対象者を被後見人ではなく、市民後見人とすれば市民後見人の登録者数が増加すると考えられるため、検討を願う。</p>	<p>今後、後見人等の担い手不足が想定されるため、引き続き市民後見人の育成に取り組んでいきます。なお、現在は第5期町田市市民後見人育成研修を実施しております。</p> <p>報酬費用の助成については、限られた予算の範囲内で、給付の対象となる助成希望者に対して平等な額の助成を行うために、支援対象を決定しております。また、民法第862条により、被後見人の財産の中から後見人に報酬を与えるという記載があるため、報酬費用の助成は被後見人に対して行います。なお、市民後見人が後見人等に着任している場合においても、被後見人から報酬費用を受けることは可能です。</p>

【議題 2】 高齢者の権利擁護について

No.	意見概要	市の考え方
10	<p>【資料 2・P 1 4】 <高齢者虐待の防止></p> <p>高齢者の虐待防止・早期発見について世話をする人が身近であるほど告発どころか隠そうとする。そういう方を発見する為には家族の有様を感じ取れる人の訪問が必要かもしれない。告発を待つのではなく、発見してほしいと願う。</p>	<p>高齢者虐待を発見した場合、市への通報義務が課せられております。このことについては、市ホームページで周知しております。</p> <p>ケアマネジャーのほか、高齢者と日常的に接するヘルパーやデイサービス職員などの介護サービス事業者が、家族等からの高齢者虐待が疑われるサインに気づいた場合は、高齢者虐待ヒヤリハットシートを作成して高齢者支援センターに相談いただいています。このような連携を通して、虐待の早期発見・早期対応に努めてまいります。</p>

【議題 2】 介護人材の確保・育成・定着について

No.	意見概要	市の考え方
11	<p>【資料 2・P 1 5】 <介護人材バンク機能強化による多様な担い手の確保></p> <p>介護人材の確保・育成・定着について 7 4 人の定着状況を記すべきではないか。</p>	<p>定着状況につきましては、現在把握しておりません。今後は就労後のフォロー方法を含め、定着状況の把握について検討してまいります。</p>
	<p>【資料 2・P 1 5】 <介護人材バンク機能強化による多様な担い手の確保></p> <p>実績値の 7 4 人の内訳で 6 5 歳以上の高齢者の人数は何人か。高齢者の人材確保にも注力すべきかと考えます。</p>	<p>2021 年度就労に繋がった 74 名のうち、65 歳以上の方は 22 人でした。なお、50 歳以上の方は 49 名おりました。町田市では、多くの介護人材を確保するため、今後も幅広い年齢層を対象とした就労支援を行ってまいります。</p>

【議題 2】 介護サービスの効率的な提供と質の向上について

No.	意見概要	市の考え方
13	<p>【資料 2・P 16】 < 養護老人ホームへの入所支援 ></p> <p>介護施設への入所にあたり、特養と有料老人ホームの違いも分からない方が多いと思います。しよりの配布だけでなく、ヒト対ヒトの声の案内も必要と感じました。ホームページへアクセスできない方もこの年代では多いと思います。周知への工夫が必要と感じます。</p>	<p>介護施設への入所については、各相談窓口（市庁舎、各地域の高齢者支援センター、あんしん相談室）にて介護全般の相談の中でご案内しております。お電話での相談の中でも、同様にご案内しております。また、各相談窓口にて配布している介護情報誌「ハートページ」では、介護施設や介護サービスの利用方法についてご案内をしております。引き続き、皆様に分かりやすい情報を提供できるよう努めてまいります。</p>
14	<p>【資料 2・P 17】 < 介護現場におけるロボット・ICT の活用促進 ></p> <p>ICT 活用の推進は、必要不可欠であるがサイバー攻撃に関しては各事業所対応となっている。サイバー攻撃を受けた事業所は ICT 活用を推進することでリスクが増大していくことになる。ICT 活用の推進をするなら同時に考えてもらいたい。</p>	<p>介護事業所を対象とした ICT 活用に関する研修を実施する際に、情報セキュリティに関する内容を盛り込むなど、事業所への支援を検討してまいります。</p>
15	<p>【資料 2・P 18】 < 認定調査員への支援 ></p> <p>認定調査員の研修は、各事業所の業務負担を圧迫しているのではないか。働き方改革もうたわれていくなかで、今後の研修はどのように考えていくのか。</p>	<p>認定調査員の研修は、適切な認定調査を行うために重要なものと認識しております。</p> <p>研修の実施方法については、2020 年度から、対面方式に加えて、非対面方式（eラーニング、リモート方式）の研修を実施して、受講者が自身の状況や時間帯に合った受講形態を選べるようにすることで、最小限の負担で受講できるよう配慮しております。受講者からは、研修内容を今後の調査に活かしたいといった声に加え、認知症など具体的なテーマに関する研修実施の要望をいただいている状況です。今後も、認定調査員の知見を高めるための機会を提供するとともに、研修の受講が大きな負担とならないよう配慮してまいります。</p>

【議題 3】 調査の実施方法について

No.	意見概要	市の考え方
16	【資料 3-1】 在宅介護実態調査に関連して、介護離職については、離職前に離職しなくても済むような支援があればよいと思います。	本調査により在宅介護の実態を把握し、介護者が離職をせずに済むような支援に係る施策の立案に役立ててまいります。
17	【資料 3-1】 新型コロナウイルスの影響から、「町田市いきいき長寿プラン 21-23」策定時と同 24-26 プラン策定時ではその環境や高齢者の健康等の状況もかなりの違いがあるであろうと考えられるため、各種調査においては現場把握をしっかりと行っていただきたい。 その調査分析を基に、最適 24-26 プランを構築されたい。	各種調査の結果を分析することにより、「町田市いきいき長寿プラン 21-23」策定時との現状の変化の把握に努めるとともに、次期計画策定に活用してまいります。

【議題 3】 調査の設問内容について

No.	意見概要	市の考え方
18	【資料 3-4】 市民ニーズ調査の問 19 について 要介護度を左右する要因だと思います。5 以下の方の理由を尋ねる工夫があればよいと思います。	主観的な幸福感については問 19 だけではなく、問 7（お体の状況）、問 8（要介護度）、問 13（ご近所付き合いの状況）、問 14（地域活動への参加状況）等と合わせて分析を行うことで、施策の立案に役立ててまいります。
19	【資料 3-4】 市民ニーズ調査の問 39（※の）但し書きは回答を記入する気を削ぐと思います。	回答をご記入いただく方のお気持ちに配慮し、「ご記入いただいた内容は施策の検討に活用させていただきます。なお、個別の回答は控えさせていただきます。」との記述に変更いたします。
20	【資料 3-4】 市民ニーズ調査の問 43 について 入所希望の要因として年金の範囲内の希望が多いと思うが、費用の面は入れなくてよいか。	費用面につきましては、複数ある施設種別の中から、なぜ特別養護老人ホームを選んだのかを確認する設問である問 41 にて把握することを想定しています。

【全般】 その他

No.	意見概要	市の考え方
21	<p>【全般】</p> <p>財政的にも苦しい一方、若年層の介護負担感と年金生活者においては物価高が進むなか介護保険の値上げも予測される。</p> <p>24-26 プランの理解と納得されるためにはわかりやすい説明が多く必要とされる。若年層も取り込んだ議論の場も必要と思われる。</p>	<p>「町田市いきいき長寿プラン 24-26」策定にあたっては、より多くの方にご理解いただけるよう、分かりやすい説明に努めます。</p> <p>また、町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会の次期市民委員の選考にあたっては、幅広いご意見を反映できるよう、性別や年齢層など、バランスの取れた委員構成となるよう配慮いたします。</p>

